

【担癌患者の方に対するワクチン接種】

令和3年2月20日時点

〈米国疾病管理予防センター（CDC）〉

悪性腫瘍、造血幹細胞移植、固形臓器移植、遺伝的免疫不全、HIV、ステロイドや免疫抑制剤使用者については、新型コロナウイルスによる重症化リスクが高いため禁忌がない場合 covid-19 ワクチンを接種が推奨されている。

化学療法またはほかの免疫抑制薬による治療中に COVID-19 ワクチン接種を受け、その後免疫能力を回復した人には、現時点では再接種は推奨されていないが、mRNA COVID-19 ワクチンの再接種や追加投与についての推奨事項は今後変更される場合がある。

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/vaccines/index.html>

〈米国がん治療学会（ASCO）〉

米国臨床腫瘍学会、および米国感染症学会はファイザー、モデルナの COVID-19 ワクチンが一般の人々にとって安全で効果的であることとともに、ほとんどのがん患者にとって安全ではないという根拠はないという考えを示している。

CDC の発表において免疫不全患者は禁忌がなければワクチン接種が可能としておりがん患者も現時点ではワクチン成分自体が禁忌でない限り接種ができる。

免疫不全の癌患者がワクチン接種に対してどの程度の有効性があるかは不確実であるため、接種後も引き続き感染予防策（マスク着用、手指衛生、三密回避など）を継続する必要がある。

<https://www.asco.org/asco-coronavirus-resources/covid-19-patient-care-information/covid-19-vaccine-patients-cancer>

〈米国がん協会（American Cancer Society）〉

がん、またはがんの病歴をもつ患者においては、COVID-19 ワクチンを接種することを推奨しているが、担癌患者におけるワクチン接種の主な懸念点は安全かどうかではなく、免疫力が低下している状況でどれほど効果的かということのほうが重要。

臨床試験においては化学療法や免疫抑制剤などで治療を受けている参加者は含まれておらず、現時点で非担癌患者と比べてどの程度ワクチン接種による効果の違いがあるかは明確になっていないが、化学療法、造血幹細胞移植、そのほか免疫療法などの一部は免疫系に影響を及ぼし、ワクチンの効果を低下させる可能性がある。

現在抗がん剤治療流の患者さんにおける適切な接種時期などは十分にわかっていない。

<https://www.cancer.org/treatment/treatments-and-side-effects/physical-side-effects/low-blood-counts/infections/covid-19-vaccines-in-people-with-cancer.html>

〈欧州がん治療学会（ESMO）〉

がん患者は新型コロナウイルスの重症化リスクが高くワクチン接種が推奨されるが、有効性と効果、また治療薬との相互作用などがどの程度あるかについてはデータが不足しておりまだ不明。

ただ、インフルエンザワクチン接種で死亡率や罹患率が減少していることがこれまで報告されていることから、新型コロナウイルスワクチンに関しても一定の効果が期待できると考えられてはいる。

生ワクチンは一般的に免疫抑制療法を受けている患者には禁忌だが、mRNA ワクチンは担癌患者に対しても接種することができる。

<https://www.esmo.org/covid-19-and-cancer/covid-19-vaccination>